

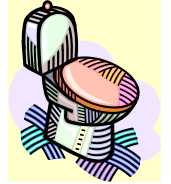
神奈川県看護協会 災害救護対策委員会

かんご 防災力 GO!!

今回のテーマ「地震が起きたらあなたの生活はどう変わる? トイレ編」

水道が止まるとトイレが使えない...

1食分、食事をしなくても、1日、お風呂に入らなくてもガマンできますよね?
でも、トイレは1回でもガマンできません! 災害時のトイレ事情をご紹介します。



数年前まで「防災」「備蓄」と聞けば、ほとんどの方が「水」「食料」をイメージされていましたが、最近では度重なる災害の経験から、被災現場の「排泄問題」が重要視されてきています。

家庭・地域・組織防災の意識が非常に高まり、多くの皆様が被災時のトイレ対策を検討している状況に合わせるように、市場では様々な簡易トイレが発売されています。

例えば今、簡易トイレを備蓄しようと考えた場合、一体何を基準にして選べば良いのでしょうか?
必要とされる必須条件があります。

- 1 誰もが「簡単」に準備でき、使用でき、処分できること
(被災者の中には、子供やお年寄りも含まれます)
- 2 被災時だからこそ、「快適」に使用できる事
(排泄を不快に感じて飲食を減らし、その結果が健康障害につながります)
- 3 間違いなく「安全」に使用でき、処分できる事
(不特定多数の人々と共同生活する場合、非常に重要なポイントです)
- 4 備蓄されている事がすぐわかる事



しかし、簡易トイレがない場合、自施設ではどんなことができるでしょうか?

病院にあるポータブルトイレやシャワーチェア、婦人科用椅子にビール袋を敷き、トイレとして使えます。
また、水が流れないトイレにもビニール袋を敷き、使うこともできます。

1人1回1袋の考え方で処理するのが良いとされています。

また、袋の中でゼリー化させることで後処理が比較的容易にできます。
トイレトーパーなどの紙類は別にしたほうがよいでしょう。



それから、**平常時から自施設のトイレのしくみを把握しておくことも大切**です。

備蓄用の水は何に使用するのか? トイレに使用しても可能な水なのか?

トイレが使用できない状態が中長期に及ぶ場合の、施設としてのトイレ対応策は?.. など、確認してみましょう!

断水をしていなくても、停電になると使えないトイレがあるので、確認しておきましょう。

停電で使えない施設の場合は、停電後すぐ、水を溜めることが必須です。

ひとこと

トイレが使えない状況になったら、知らずに使ってしまわない前に、まず、**使用禁止の表示が必要**です。某メーカーに問い合わせたところ、製造年により違いますが、トイレの水が止まった場合でも溜め水を6ℓから13ℓ(バケツ2杯分)流せば、**排水管を詰まらせることはないそうです**。排泄物が配管を通過するために必要な水は、2~3回使用のたびに10ℓ位流すのが良く、便器ごとにタンクがある場合は、直接、便器に水を流すよりもタンクの中に水を入れて使用した方が良いとの事です。トイレの流れが悪い場合は、排水管が破損している可能性が高いため使わない方ください。排水管が遠くで破損している場合は、数日してから流れが悪いことに気付くことがあります。 **排泄物を流すためには沢山のお水が必要なんですね。**

これらの他にも体験談やご自身で工夫していращやること等ありましたら、ご意見をお待ちしています。

⇒裏面のファックス返信用紙をご利用ください